

運転マナーと交通安全

札幌市医師会
せんば内科医院

仙場 敬三

私は自宅から診療所まで約16km、毎日のように車で通勤している。ここ数年、私の常識とは異なる運転をするドライバーが多く、少しイライラしながら運転をしている。右左折時、何故しっかり端に車を寄せないのか。右折車は交差点中央付近で待つべきと思うが、何故横断歩道上やその手前に止めて後続車の進路を塞ぐのか。何故ウィンカーの点灯が遅いのか。何故交差点の直前に駐停車するのか。僅か2～30m先を右折するのに、驚かすほどのスピードで追い越し、割り込む必要があるのか。何故狂ったように飛ばすのか。いくら飛ばしたところで、時間にして僅かな違いであろう。

軽自動車が煽り、追い越し猛スピードで去って行く。ブリキの箱のような車だ。何かあればただでは済むまい。猛スピードで横を駆け抜けて行く車が信号待ちで止まり、兄ちゃんと思ってチラリと横目で見ると妙齢の女性だったりする。最近は女性も飛ばすのである。車の通行には流れがあり、速過ぎても遅過ぎても迷惑だ。事故を察知したらまず止まることであるから、スピードの出し過ぎはやはり禁物である。

私は東京での生活も長かったが、都内で事故現場に遭遇することはなかった。だが、札幌市内ではしばしば見掛ける。渋滞等の交通事情もあろうが、印象として札幌は事故が多いように思う。

私が事故に遭ったのは18年前の冬、早朝の出勤途中であった。T字路を進行中、右の脇道に数台の車が連なっていて、私は徐行し先頭車が出てきたら道を譲るつもりでいた。しかし、車が出てこないのゆっくり進んでいたら、突然先頭車が右ボンネットに激突してきた。そのドライバーはスリップしていて焦り、アクセルを踏み込み過ぎて突然発進したのであった。ぶつかってきた中古のトヨタFR車はエンジンルームが潰れていたが、私の乗ったジープはボンネットの凹みだけであった。アメ車のボディは頑丈だ。ボンネットではなく運転席だったらと思うとぞっとした。その日の夕刻、相手方から謝罪の電話があった。事故直後は激昂していたが、消え入るような声で詫びていた。彼は保険未加入、弁償不能で修理に60万かかったが泣き寝入りだった。私に過失はない。いかに相手に非があろうとも、事故に巻き込まれたら大きな損害を被る。

私も自身の状況判断や反応が鈍くなってきたと自覚している。いつまで安全に運転できるか考える年齢になってきた。運転を止める時まで無事故を通したいものだ。

みなさん、議論していますか？

札幌市医師会
耳鼻咽喉科麻生病院

石川 和郎

最近の国会のニュースを見ていると、日本人にはいわゆる議論というものがないのではないかと感じてきます。Aという議案に対して議論するにはBという対論があって初めて議論が成立するものだと思っていたら、対論が無くて賛成か反対かという議論しかやっていません。いや、いかに反対かを説明してくれるならまだしも、反対だから議論することを拒否するのだ、という論法がまかり通っています。皆それを疑問に感じつつも誰もそれを指摘しません。テレビも新聞も議論を促すような報道はなく、ただ会議の混乱を報道するだけです。

で、我が身を振り返ってみると、病院内の会議でもなんだか議論が議論として成立していない感じがしています。私たちが議論と呼んでいるものは本当に議論なのでしょうか？

会議では病院側から提案されたことを議論せず周知するだけ、あるいは賛成か反対か表決するだけ、あるいは説得されてその場の空気に応じて賛成に回るとかいう結果が多いようです。原案をより良いものに修正するとか、対案を出していいとこ取りの融合案にするとか、中身をより良いものに変えていく議論はなされていますか？ 全ては自分たちに降りかかってくる話です。自分の都合でなく、患者さんの利益、病院の利益、評価に影響する話かもしれません。

この話の根底には皆、共通の感覚、感性があって、話さなくても感覚で分かり合えるはずと思い込んでいるからかもしれません。実際には皆、別々の考え方をしているから、話し合っただけで意見を統一しないと同じ方向へ動けないのだということを忘れているのかもしれない。考えが違えばノーと言うのではなく、ノーと言わないようにするにはどうしたら良いのか、ノーと言わず自分の考え方を結論に入れてイエスと言え結論を作るのが良い議論と私は思います。そうでなければ議論ではなく説得というものになってしまう。私たちも国会や院内の会議を相手の説得ではなく、もっと前向きに議論として進められたら、より良い状況が生まれるように思います。皆さんは良い議論ができていますか？